

今週の

いきもの広場

1 ナミテントウの幼虫



さなぎの姿

アブラムシ(矢印)を食べるため農業においては益虫として知られています。この後、さなぎ(右)を経て、成虫になります。

2 ウスバカゲロウの幼虫 (アリジゴク)



「アリジゴク」は、ウスバカゲロウの幼虫(右)が地面の上を歩く虫をつかまえるために作る、ろうと状の罠です。



3 コナライクビ チョッキリの揺籃

イクビチョッキリがクヌギの葉に切れ目を入れ、巻いて作った揺籃(おとしぶみと呼ばれるもの)です。内側の葉には卵がひとつ産みつけられています。

4 オオシオカラトンボのオス



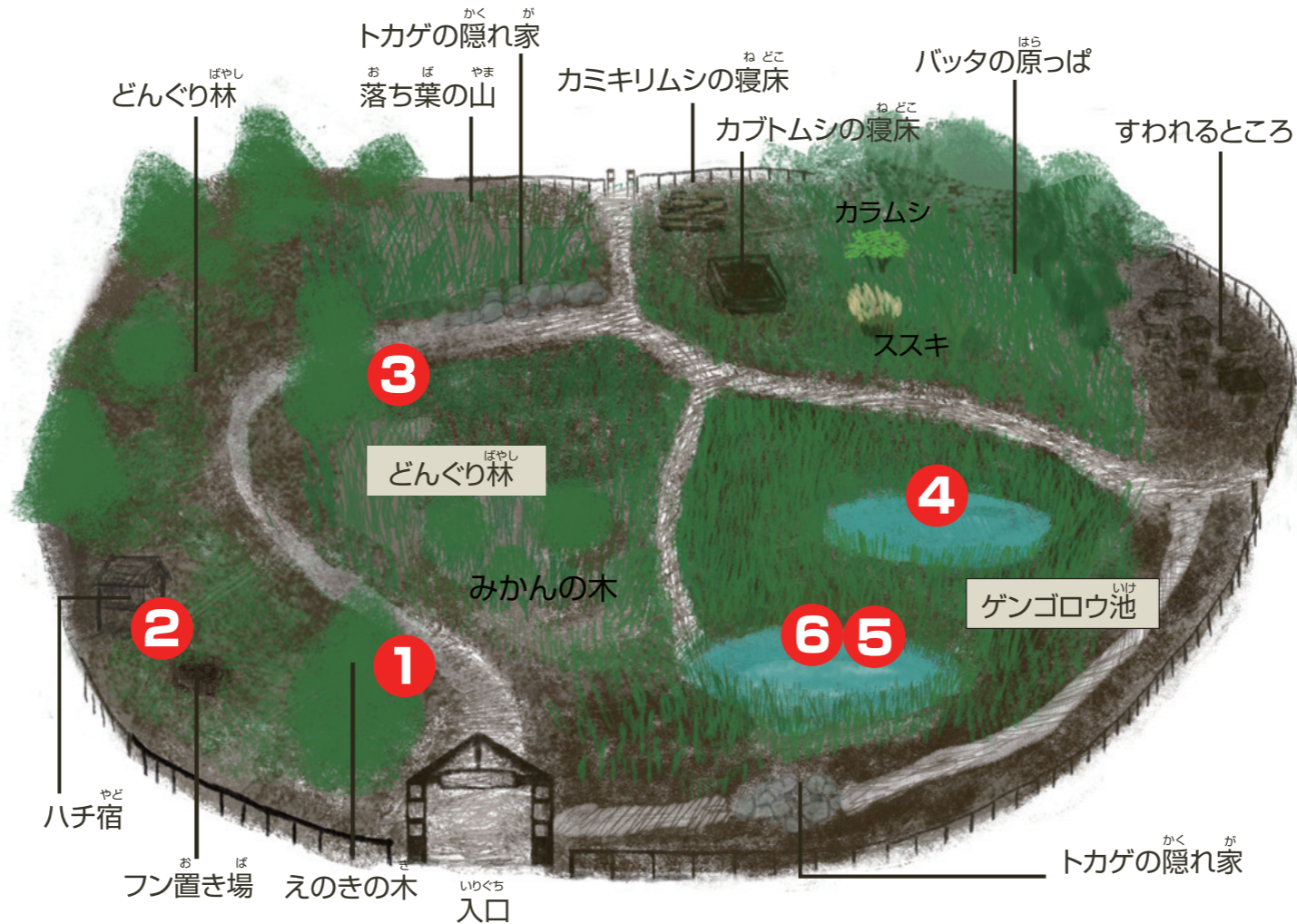
青い体のオスは池のまわりを飛び回り、他のオスが来ると追い返します。



カブトムシの幼虫は お休みします

いよいよさなぎになる大事な時期になったので、カブトムシの幼虫を探すのは、しばらく休止します。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。5月に入り、あたたかな日差しの下、いきものたちの活発な姿が見られるようになりました。



6 クロスジギンヤンマのメス



春先に羽化したギンヤンマが成熟し、繁殖のために水辺に姿を見せるようになりました。写真は、昨年同じ池で産卵をしていたメスです。

5 モノサシトンボ



枝のような細い体と、池のふちの草むらに隠れていることが多いため、なかなか気付かれませんが、美しい姿をしています。